



令和6年4月

校長 小林 敏朗

津田古志原夢きぼう学園

1 学校教育目標

未来をめざす「自立 共生 創造」

《めざす子ども像》…こしばらっ子のあいことば

「えがおいっぱい」

- 本 気（徳）…何事にも真剣で、人を大切にする子
- やる気（知）…自ら考え、表現する子
- 元 気（体）…たくましい体づくりに励む子

2 学校経営方針

「自己肯定感」を育む・高める

- 子どもたちが安心・安全に生活できる学校・学級づくり
- 日々の授業づくりを中心に据えた学校・学級づくり
- 家庭や地域と連携し、信頼される学校・学級づくり

3 学校経営方針の具体

○子どもたちが安心・安全に生活できる学校・学級づくり

- ・子どもと向き合う（聴く・受容する）

～子ども理解に努める（困り感に寄り添う・背景に目を向ける）

- ・居心地のよい学級・学校（安心感のある居場所づくり・学びの基盤づくり）

～ルール、リレーションの確立

- ・学年部で学年全体の子どもたちを支える・育てる

学年担任制（ローテーション・朝礼・終礼・給食など）～学級の垣根を低くする

- ・学校内外の安全管理・安全指導の徹底（食物アレルギー対応、事故の未然防止等）
- ・子どもたちの人権を大切に教育の推進（全ての教育活動を通じて人権教育を基底に）
- ・安全でいじめのない集団づくり ～我々のアンテナを高く、常に磨き、そして情報共有～
- ・子どもたちのがんばりや伸びを認める、誉める（結果よりも過程に目を向ける・一人一人に活躍の場を）
- ・支援や個別の配慮を必要とする児童がいることを前提とした学級経営・授業づくり
- ・子どもたちのつながりを大切に縦割り班活動、学校行事（関わる、折り合いをつける、憧れをもつ）
- ・生徒指導の柱「あいさつ」「そうじ」「細かいところをきちんと（例：教室移動・整理整頓等）」

○日々の授業づくりを中心に据えた学校・学級づくり

- ・授業づくり「わかった!」「できた!」の声が響く学校・学級づくり

- ・主体的・対話的で深い学びの授業づくり～教師が話す授業から子どもがしゃべる授業へ～

- ・「不易」（道徳教育、図書館活用など）と「流行」（ICT活用など）の両輪を大切に教育の推進
- ・特別支援教育の視点からの授業づくり
- ・日々の授業づくりを通して、子どもと共に成長する教職員集団（常に学びつづける姿勢）
- ・校内研修の充実・自己研修、自己研鑽

○家庭や地域と連携し、信頼される学校・学級づくり

- ・保護者の言葉をしっかりと傾聴する姿勢

- ・保護者と共に考える姿勢

- ・子どものよさや伸び、プラス情報を多く伝える（日々の電話・連絡帳、学級通信、学校だより等）

松江市の教育方針（「松江市教育大綱」より）

- 生きる力を持った子どもたちの育成
- 一人一人の育ちと学びを支える体制づくり
- 子どもたちの教育環境の充実
- 生涯にわたり心豊かに学び合う環境づくり

「津田古志原夢きぼう学園」
小中一貫教育の共通目標
自らを知り 高め伸ばそうとする 子ども